大田区長×片桐

大田区の文化再発見

風通しの良い、「東京の勝手口」。大森駅150周年に懸ける思い

鈴木区長（以下、区長）：はいりさんは大田区にどんなイメージを持っていますか？

片桐はいりさん（以下、はいり）：大田区は本当にいろいろな要素が混ざっています。私は特に、東京の南東角という立地が気に入っているんです。不動産に例えると日当たりも良くていい物件。羽田空港もあるし、都心にもすぐ行ける。ふらっと自由に出入りができるので「勝手口」みたいだなと。私は映画館でも出入口に近い席が好きなんですけれど……だから居心地がいいのかな。

区長：面白い表現ですね。大田区は古くから東海道沿いのまちとして、人々の旅やにぎわいの出発点となり栄えてきました。大森は海苔養殖の発祥の地❶だったり、町工場での製造業が盛んだったり、生活文化のスタート地点なのだと感じます。それが受け継がれているのか、皆さん生き生きと暮らしていますね。

はいり：人がたくさん歩いて踏み固めた道には、地場のようなエネルギーが残っている気がするんです。だからこのまちが好きなのかも。私の地元・大森も令和8年（2026年）に大森駅開業150周年❷を迎えます。駅前のキネカ大森❸のような希少な映画館を守って、一緒にまちを盛り上げていきたいと駅長さんとも話しています。

区長：大森は歴史ある駅ですよね。お隣の蒲田も、かつて松竹キネマ蒲田撮影所❹があり映画スターが多く住んでいた地域。そうした映画の匂いは、今も地域に残っていると感じます。

はいり：区民の皆さんのお宅に眠る古い写真などを集めて、当時のまちの姿を掘り起こしたり、いろいろできると面白そうですよね。

区長：いいですね。区制80周年❺を見据え、さまざまな企画を練っていますので、はいりさんの素敵なアイデアをもっといただけたらうれしいです。

「龍の道」を歩き、銭湯でおしゃべり。生活に溶け込む大田カルチャー

はいり：区の文化資源もいろいろありますが、私は龍子記念館が好きです。記念館から池上本門寺までの道を勝手に「龍の道」と名付けて、たまに友人を案内しています。帰りには銭湯❻に寄ることも。

区長：銭湯は私も好きで、実は銭湯サポーターなんです。大森湯には高温のサウナがあるし、蒲田の銭湯では黒湯の温泉も楽しめます。

はいり：昨夜も改正湯に行きましたよ。ご主人と話し込んでいたら時間がなくなっちゃった（笑）。昔ながらのお店には「ここにしかないもの」がありますよね。開発が進んで、どこも同じような店ばかりになってしまうのは寂しいなと思います。

❶ 海苔（のり）養殖の発祥の地

大森での海苔の養殖は江戸時代中頃から昭和38年春まで行われていました。東京都沿岸部での海苔づくりが終わった後も海苔問屋が多数残り、海苔流通網の拠点の一つになっています。海苔づくりの歴史や文化は「大森 海苔のふるさと館」で詳しく知ることができます。

❷ 大森駅開業150周年

明治9（1876）年、新橋～横浜間の鉄道開通から4年後に開業。日本考古学の原点とも言える「大森貝塚」の発見、発掘調査に大きく寄与しました。令和8（2026）年6月12日（金）に開業150年を迎えます。

❸ キネカ大森

日本初のシネコンとして昭和59（1984）年にオープンしたまちの映画館。はいりさんは現在も時々来館し、来館者に声をかけたり、自身も映画を楽しんだりと、キネカ大森を盛り上げています。

❹ 松竹キネマ蒲田撮影所

大正9（1920）年から約16年間、さまざまな映画が製作されました。当時蒲田には俳優や映画関係者も多く住み、その華やかさは「流行は蒲田から」と言われるほど。跡地は現在の大田区民ホール・アプリコで、文化が次の世代にも受け継がれています。